

令和6年度生野区区政会議 第2回全体会

1 開催日時

令和7年1月17日（金） 19時00分～

2 開催場所

生野区役所 6階 大会議室

3 出席者

（区政会議委員）26名

森口委員、長谷川委員、平島委員、西村委員、加藤委員、永裕委員、中村（寛）委員、衣川委員、須郷委員、籾本委員、井筒委員、玉井委員、北口（英）委員、田村委員、福田委員、北口（充）委員、島本委員、西野委員、廣川委員、足立委員、安委員、塚本委員、中村（一）委員、川中委員、山納委員、今井委員

（大阪市会議員）4名

木下議員、武議員、原口議員、山田議員

（その他関係者）6名

田中様、和田様、新井様、伊藤様、三木様、船方様

（生野区役所）15名

筋原生野区長、大川副区長、宮城企画総務課長、川楠まちづくり推進担当課長、山崎安心まちづくり担当課長、中條地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、山東教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、徳元教育委員会事務局指導部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、松村保険年金担当課長、松藤生活支援担当課長、小川保健福祉課長、藤原子育て・地域福祉担当課長、武田窓口サービス課長、森区政推進担当課長、小笠原企画総務課担当係長

4 委員に意見を求めた事項

（1）部会報告

まちの未来部会/こどもの未来部会/くらしの安全・安心部会

（2）高校生との区政に関する意見交換会についての報告

（3）その他

- ・会議資料 令和7年度生野区の取組（案）について_修正版
- ・参考資料1-1 「生野区グローバルタウン物語」プロジェクト説明資料

- ・参考資料 1－2 生野区将来ビジョン2023-2026（令和7年1月改定版）（案）
- ・参考資料 2～4 主なご意見等と区の考え方、対応
（令和6年度 第2回生野区区政会議 各部会）
- ・参考資料 5 高校生との区政に関する意見交換会について（報告）

5 会議内容

○森区政推進担当課長

それでは皆様、お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第2回生野区区政会議全体会を始めさせていただきます。

本日はご多用のところ、当会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は、事務局の生野区役所企画総務課、森でございます。以降、着座にて失礼させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

まず最初に、本日ご出席の委員の皆様をご紹介させていただきます。委員名簿の順でお名前をお呼びいたしますので、お名前を呼ばれました際にはお手数ですが、ご起立のほうをお願いいたします。

森口委員でございます。

○森口委員

よろしく願いします。

○森区政推進担当課長

長谷川委員でございます。

○長谷川委員

よろしく願いします。

○森区政推進担当課長

平島委員でございます。

○平島委員

よろしく願いします。

○森区政推進担当課長

西村委員でございます。

○西村委員

よろしく願いします。

○森区政推進担当課長

加藤委員でございます。

○加藤委員

よろしく願いします。

○森区政推進担当課長

永裕委員でございます。

- 永栢委員
よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
中村寛子委員でございます。
- 中村（寛）副議長
よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
衣川委員でございます。
- 衣川委員
よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
須郷委員でございます。
- 須郷委員
須郷です。よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
籾本委員でございます。
- 籾本委員
こんばんは。よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
井筒委員でございます。
- 井筒委員
よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
玉井委員でございます。
- 玉井委員
こんばんは。よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
北口英晃委員でございます。
- 北口（英）委員
よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
田村委員でございます。
- 田村委員
こんばんは。よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
福田委員でございます。

- 福田委員
よろしくお願ひいたします。
- 森区政推進担当課長
北口充宏委員でございます。
- 北口（充）議長
こんばんは。よろしくお願ひいたします。
- 森区政推進担当課長
島本委員でございます。
- 島本委員
よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
西野委員でございます。
- 西野委員
こんばんは。よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
廣川委員でございます。
- 廣川委員
よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
足立委員でございます。
- 足立委員
こんばんは。
- 森区政推進担当課長
安委員でございます。
- 安委員
こんばんは。よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
塚本委員でございます。
- 塚本委員
こんばんは。
- 森区政推進担当課長
中村一仁委員でございます。
- 中村（一）委員
よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
川中委員でございます。

○川中委員

よろしくお願ひいたします。

○森区政推進担当課長

山納委員でございます。

○山納委員

こんばんは。よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

今井委員でございます。

○今井委員

よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

川本委員は少し遅れられております。

なお、栗津委員、村岡委員、倉本委員につきましては、所要によりご欠席とご連絡をいただいております。

本日の会議は、委員定数 30 名に対しまして 26 名の出席があり、定数の 2 分の 1 以上の出席がございますので、有効に成立しておりますことをご報告させていただきます。

本日傍聴の方はおられません。

続きまして、条例第 8 条第 1 項に基づきます市会議員様のご紹介をさせていただきます。

木下誠議員でございます。

○木下議員

こんばんは。よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

武直樹議員でございます。

○武議員

こんばんは。よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

原口悠介議員でございます。

○原口議員

こんばんは。よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

山田正和議員です。

○山田議員

こんばんは。よろしくお願ひします。

○森区政推進担当課長

同じく、関係者といたしまして、歴代の議長などを務めていただきました皆様のご出席について、ご報告させていただきます。

田中照章様でございます。

○田中様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

和田友祐様でございます。

○和田様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

新井光淑様でございます。

○新井様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

伊藤廣美様でございます。

○伊藤様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

三木幸男様でございます。

○三木様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

船方ひとみ様でございます。

○船方様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

区政会議に関する本市の規則によりまして、本日出席された委員の方のお名前、発言内容につきましては公開させていただきます。事務局におきまして会議録を作成いたしまして、後日、区のホームページなどで公開させていただきますほか、会議の様子を収録いたしまして、後日 YouTube において配信し、どなたでも閲覧できるような形にしていまいりますので、録音・撮影につきましてご了承のほうをよろしくお願いいたします。

本日の全体会では、先月開催いたしました各部会でいただきましたご意見等につきまして共有させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、本日の資料のご確認をお願いいたします。「令和6年度第2回生

野区区政会議全体会「次第」をご覧ください。まず会議資料といたしまして、令和7年度生野区の取組（案）について修正版というA4の資料がございます。先にお配りさせていただいたものから一部修正がございますので、修正版としております。次に、参考資料1-1「『生野区グローバルタウン物語』プロジェクト説明資料」でございます。参考資料1-2「生野区将来ビジョン2023-2026（令和7年1月改定版）」でございます。次に参考資料2、3、4といたしまして、「主なご意見等と区の考え方」。こちらは先月の各部会でいただいたものでございます。次に参考資料5「高校生との区政に関する意見交換会について」という資料でございます。

お手元資料に過不足はございませんでしょうか。ありがとうございます。

また資料とは別に、区政会議全体会の運営に関しますアンケートを配付させていただいております。このアンケートは毎年行うもので、本市の区政会議運営をよりよくしていくために委員の皆様からご意見を頂戴するものとなっております。会議終了後にご回答を回収させていただきたいと思っておりますので、ご協力のほうよろしくをお願いいたします。

それでは、ここからの議事進行につきましては北口議長にお願いしたいと思います。北口議長、よろしくをお願いいたします。

○北口（充）議長

議長の北口です。

ただいまから、令和6年度第2回生野区区政会議全体会を開催します。

それでは、開催にあたりまして、筋原区長からご挨拶をお願いします。

○筋原区長

皆様、こんばんは。生野区長の筋原でございます。年の最初でございますので、改めまして、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

本日はお仕事、また、ご家庭のご用事でお忙しい中、生野区区政会議の全体会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

先月開催しました各部会におきましては、令和7年度の生野区の取組（案）と「生野区グローバルタウン物語」プロジェクトについてご説明をさせていただきました。委員の皆様方から貴重なご意見を頂戴したところでございます。本日は各部会の報告をさせていただきました。全体で共有してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

冒頭に私のほうから少しお時間をいただきまして、改めまして「生野区グローバルタウン物語」プロジェクトについて簡単にご説明させていただきます。資料につきましては、お手元の参考資料1-1をご参照いただければと思います。

生野区は、皆様ご承知のように、区民の5人に1人が外国人住民でございます。

て、都市部では日本で最も外国人比率が高く、また住民の国籍の数も約 80 か国というグローバルタウンとなっております。

コロナ禍収束後、日本語が話せない児童、またご家族の中で誰も日本語を話せないというご家庭が急増しつつあります。特に日本語が話せない子供たちが勉強、また就職で不利にならないように、支援機関や日本語学校と行政が連携をしまして、外国ルーツの子供たちに対する日本語指導や母語でのサポートや学習支援、日常生活の相談等々を行っているところでありまして、これらの活動が継続できる資金面、人材面でサポートできるような環境づくりが必要と考えております。

同時に、貧困から犯罪に巻き込まれる人が増えて、区的安全・安心が脅かされるというような事態を防ぐには、学歴に関係なく、どの国の人も仕事を得ることができるという環境づくりも大切と考えております。区の総売上げの 8 割以上が製造業と卸売り、小売業が占めるという生野区におきましては、やはり、ものづくり企業と飲食店が繁盛して稼ぐことができ、まちに人とお金が循環するという状態であるというのが重要と考えております。そのためにもものづくり企業の高い技術力とデザイナーらのアイデアを組み合わせる新製品を生み出そうという「生野ものづくりタウン事業」を一昨年からはじめておりますが、これを継続しまして、ものづくり企業に新しい収益の柱を立ててもらおうということを目指しております。

また、いくのパークにおきましては、定期的な「万国夜市」の開催をするともに、外国ルーツの人も対象に入れまして、飲食店の起業の仕方を学べるセミナーを開催するという取組も昨年からはじめております。実際にこのセミナーを卒業した外国ルーツの方には、この「万国夜市」にお試しで出店をしていただいて経験を積んでもらって、飲食店の起業につなげていただくという取組も始めているところでございます。

また、加えてコロナ禍、また円安の影響で飲食店の売上が大体 2 割ぐらい落ちているというふう聞いておりまして、この売上額の減少分をカバーしていくには、インバウンドの誘致が有効と考えております。今、大阪コリアタウンは年間 200 万人の人に来ていただいていますけど、夕方 5 時くらいには閉まってしまっていて、インバウンドが来ていないという状態でございますので、このコリアタウンの営業時間を延長しまして、夜市場、韓国語のヤシジャン、この夜市場（ヤシジャン）を昨年からは試験的に開始をしております。

このコリアタウン、夜市場（ヤシジャン）といくのパークの万国夜市を同時開催いたしまして、例えば、昔は生野区でも 1 のつく日に夜店があったということがございますが、月に 1 度程度定期的で開催していくことができたら、旅行代理店と提携して観光バスでインバウンドを誘致するというようなことも可能

になってまいります。

また、ひいては、台湾や韓国のような風情のある夜市を常設で楽しめる場所をつくりまして、生野区ならではの面白さ、優しさを感じてもらえる地元店の屋台、また、各国の料理の屋台を集積しました、「生野区グローバルタウン」を象徴するにぎわい拠点を開業することを目指したいと考えております。

この常設のにぎわい拠点の候補地といたしましては、以前からこの区政会議で有効活用が必要というご意見をいただいております近鉄鶴橋駅の東口を出たところに線路の高架下の空いている部分、その部分が非常に魅力的ではないかと考えておまして、今、関係先とも調整を始めようとしているところでございます。

また一方で、外国からの不法な入国や滞在等に対しては、区役所、警察署、消防署、また入管をはじめ関係機関の連携を強化して、これには厳しく対処して、区の安全・安心の確保にも努めたいと思っております。

これらの一連の取組を「生野区グローバルタウン」プロジェクトといたしまして、生野区出身のインフルエンサーの YouTuber である、ジョーブログのジョーさん、フォロワー243万人のインフルエンサーでございますけれども、と連携して発信をしていきたいと思っております。このジョーさんに生野区の振興・親善・観光大使に就任いただいたところ、このプロジェクトにも賛同いただき1,000万円の寄付をいただきました。これも財源として、このプロジェクトを具体的に進めたいと思っておりますのでございます。

参考資料 1-2 に、生野区将来ビジョンをつけておりますけれども、この生野区将来ビジョンのほうにも、冒頭に「真のグローバルタウンをめざして」ということで、「生野区グローバルタウン物語」プロジェクトの内容について追記をして改定してまいりたいと思っておりますので、併せてよろしくお願いを申し上げます。

本日も貴重なご意見をいただきますように、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○北口（充）議長

ありがとうございました。

それでは、早速議事に入りたいと思いますが、限られた時間で円滑に進めていただけるよう、ここからは学識委員の山納委員に会議の進行をお願いしたいと思います。

山納委員、よろしくお願ひします。

○山納委員

ということで、議長からご指名をいただきました山納でございます。よろしくお願ひいたします。

議事にも書かれておりますが、12月に行われた3つの部会の報告が今から行われます。まちの未来部会・こどもの未来部会・くらしの安全・安心部会の報告があります。その後、2番、高校生との区政に関する意見交換会についての報告があります。

いつもマイクを端から回すということを恒例にしていたんですが、残念ながら時間が無いということで、今からの3つの部会の報告の後に、皆さん、5分ぐらい質問・ご意見を言っていただく時間があります。あと、2番の高校生との区政に関する意見交換会の後にも、そういう時間があります。そういうことで、皆さん、注意してください。発言できるタイミングは4回。どこでそのタイミングをうまく使っていただくかを考えて、話を聞いていただければ幸いです。

ということで、着座させていただきます。

最初に私からまちの未来部会についての報告をさせていただきます。

まちの未来部会は、12月16日（月曜日）に開催されました。先ほどご説明いただいたような、筋原区長からの「生野区グローバルタウン物語」プロジェクトについての説明をいただきました。主にその内容について意見交換をさせていただきました。

1つは、グローバルタウン自体を受けて、このジョーブログさんという人のインフルエンサー能力がすごく期待されるのですが、そのターゲット層以外にどういうふうにアプローチしていくのかを考えていけないというような意見がございました。

続いて、200万人既に来られている大阪コリアタウンについて、いくつかのコメントがございました。既に200万人来ているが、せっかくそれだけ来ているんだったら、ほかの地域の活性化にもつなげていけないだろうか、というような意見がありました。また、大阪コリアタウン自体なんですが、夕方5時になるとお店を閉めてしまって、お客さんが帰ってしまう。営業しているお店がなかなかないということ。もっと営業すればもっと活気が出る。ソウルのミョンドンのような形にできないものだろうかという話があったりいたしました。また一方、いくのパークの万国夜市は、キッチンカーがよそからやって来て、よその人が儲けているだけではないのだろうかという懸念も挟まれていたりいたしました。既に200万人来られている、この力というのをどこにどう生かしていくのか、さらに活性化するにはどうしたらいいのか、ということが出てまいりました。

さらに、外国人が80か国から来られていると。その外国人の人たちとの関係性の話ですが、お互いを理解するために交流できるような場があったらいいのではないかというようなご意見であったり、国籍によって抱えている課題がいろいろ違うのではなからうか。最近、ネパールの方が多く来られているわけです。

けれども、もともと単身で来ていたネパールの人たちのところに、コロナ以降落ち着いて、家族の方々、こどもがやってきた。日本語が全然分からない状態で学校に行かないといけない。このこどもたちには、どう寄り添えばいいんだろうというようなこと。具体的に解像度を上げて外国人の問題について考えていくということ。

あるいは、お店を出されるんだという人がなかなか続いていない。先ほども、起業支援ということがありました。集客というところまでどうやったら支援できるのだろうかという意見が出ていたりもしました。

さらに、最近起きている地域での問題についての言及もなされていました。

1つは、これは林寺の地区ですが、空き家を購入して日本語学校をスタートさせた事業者がいるが、改修ができていないのに大量の生徒を住まわせているような状況が起きている。これは対処しないといけないのではないかということ報告いただいた。

また、こどもの学力についての言及もなされました。生野未来学園が、大阪初の9年制の義務教育学校としてスタートしたけれども、令和6年度の全国学力学習状況調査をしたときに、国語と算数の成績が芳しくないということである。学校が開校以来、ずっと工事をしていると。その工事の音がうるさくてこどもが集中できないのではなかろうかという懸念も表明されていたりいたします。

ほかの、大池小学校の学力の話についてもあります。その学力の問題について、小学校で補習をする、学校側で1コマでもいいから補習の時間をつくってほしいとか、地域でも教えることのできる人材を探すとか、必要であればお金を出して講師を雇うとか、そういうところまで対処していく必要があるのではないかという話も出ています。

つまり、ここはまちの未来部会なんです。こどもの未来を考えることこそ、まちの未来である、そういった意見が出てまいりました。

ということで、まちの未来部会の報告でございますけれども、ただいまの報告についてご質問、意見がありましたらご発言いただければと思います。挙手の上、お名前を述べていただいて、ご意見を賜ればと思っております。よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

安さん、お願いします。

○安委員

どなたも手を挙げないんで、一番で手を挙げただけなんですけれども。

グローバルタウン構想というふうに僕は略して言いますけれども、決して悪くはないと思うんです。ただし僕は、その前年に多文化ふらっとという、いくのパークを運営している多文化タウンを標榜している NPO 法人があるんですけれども、その詳細を見ましたら、ちょっとびっくりしまして。というのは、「日

本語があなたはできますか」と、うちのつれに調査が来たんですけれども。ちなみに私は2世で、父親の代からいくと100年日本に住んでいて、そういう愚問をアンケート用紙に書かれておられて、話の中で、国籍によってニーズが違うので、こと細かなケアをしないとイケないのが1点と。

もう1点は、私の場合、日本語もしゃべれますし、地域でPTAの会長もさせていただいたり、子供会の会長をさせていただいたんですけれども、実は民生委員にはなれませんし、人権擁護委員にもなれません。かつ、私の友人の弁護士たちは、国籍条項はないんですけれども、家庭裁判所の調停委員にもなれません。そういった人権問題で特に最近気になっているのは、俗にいうヘイトの話なんですけれども、一昨年、小学校で、国際クラブで、いわゆる朝鮮の楽器を鳴らすと、「ここは日本やぞ」「そんな朝鮮の楽器を鳴らすな」という発言があったり。私自身も、先々週ですか、あるボランティアランチに行きますと、いろいろそんな話をさせていただいたら、「文句あるんやったら、日本を出て行ったらいいやん」と。どうも小学校の発言の方も、私ぐらいの年代で、底辺にどこか、日本社会の外国人に対して排斥するような心のむねが残っているんじゃないかと。それが端的に、例えば、人権擁護委員になれないとか、民生委員になれないことにベクトルとはつながっているんじゃないかと思っています。

2070年には、1,000万人外国人が生まれると言われていています。要は、1割外国人社会です。そうすると、グローバルタウンの、暮らして、遊んでも楽しいし、働いても楽しいし、そのスローガンはいいんですけど、それが前輪か後輪か分かりませんが、その両輪にやっぱり人権という、もう一つの両輪がないと、前だけ一生懸命走っても、後ろは全然走らないような状態になるんじゃないかなと、ものすごく危惧しています。むしろ、全国で一番密度が高いんやったら、いろんな政治的な問題もありますけど、中央政府のほうに、こんなふうやってるんやから、もうちょっと外国人の人権を守っていこうぜっていうアドバルーンを上げてもいいんじゃないかなと。生野区だからこそ、そういう提言をできるんじゃないかなと思っています。

○山納委員

ありがとうございます。あと1人か2人。では、平島さん。

○平島委員

「生野区グローバルタウン物語」は、すごくいい話なんですけど、これは生野区というよりは、生野区っていったら結構広いんですね。結局、このコリアタウンっていうのは、御幸森地区、うちの地区なんですけど、御幸森会館っていうのがすぐコリアタウンの横になるんですけど、昼間なんか、もう人がめっちゃ多くて、横に公園があるんですけど、飲食してる方がいっぱいいてまして、それでごみの問題とか。店が並んでたらずっと並んできて、もう道が封鎖されるようで車

が通れない。警察呼んでも、何も整理もしてくれない。昼の状態がめちゃくちゃやのに、まだ夜もめちゃめちゃしますかっていうことなんですね。だから、今、昼の問題が全部クリアできて、それで次のステップでこういうことしたいというんやったら分かるんですけど、昼も夜もめちゃくちゃするんですかっていう話ですね。これ、僕の方にすごい苦情来てるんです。だけど、警察であろうが、消防であろうが、結局、ただ見てるだけなんです。そういう現状で、この「生野区グローバルタウン」っていうのを、名前はやっぱり御幸森コリアタウンっていう名前に変えたほうがいいんじゃないかな。だから、結局、御幸森のコリアタウンの地区の人間だけが儲かるだけの話であって、それは商売してる方だけであって、商売してない方は、もう夜はゆっくり寝たいと。

インバウンドなんですけど、例えば、昨日ニュースでも見ましたが、今、白馬のほうのスキー場では、インバウンドですごい儲かってますわ。だけど、めちゃめちゃ暴れてますわ。だから、国内の人間が活性化するんやったらいいんですけど、インバウンドが来て、飲み食いして、暴れて、騒いで、帰るだけ。住民は、もう勘弁してくれというのがほとんどの感じですよ。

まだいっぱい言いたいことがあるけど、時間がないから、これでやめておきます。

○山納委員

ありがとうございます。時間いっぱいくらいなんですけど、もう1人くらい、ありますか。

○足立委員

すみません。お二人の話の続きで。

私も御幸森地域で、今、平島さんが言ったごみの問題と、日々格闘してる感じで、それは話はきりがないぐらい。今、実は比較的きれいなんです。それは、いろんな工夫があったからなんです。住民のボランティアっていうか、地域住民とか、地域町会とか、いろんな人たちの知恵などでやってて、これ、いつまでもつかないという状況です。でも、細かいことはちょっと置いて。

私、これ見たときに大事なことがひとつ抜けているんじゃないかなと思ったことがあります。一番の生野区の強みが抜けてるなと思ったんです。その生野区の強みっていうのは、在日コリアンの人たちとの長い共生、括弧つきの共生ですよ。今も言ったようにヘイトスピーチとか、差別の問題も抱えてるとはゆえ、共生としてずっと生きてきた、その良さがあるからこそ、皆さんもご存じかと思うんですけど、実はコリアタウンのフィールドワークに年間1万人以上かな、ものすごい数の人 comes。歩いてたら分かるけど、学生さんとか、修学旅行とか、こどもたちとか、社会見学の人が多いんです。単なる、物を買いに来ている人とは違う人たちが学びに来ているんですよ。この人たちは、いわゆる K-POP や韓

流のブームが去っても、この地域の歴史と、そういう今までの共生の歴史を学びに来ているから、減らない人たちなんですよ。私がずっと不思議なのは、どうしてそれがここに入っていないのかなって。その一番ブレない強みです。それを中心にやっているのが、多分、いくのパークに入ってるコリア NGO センターであったりとか、その近くの NPO の団体さんで、それは多分、皆さんよくご存じだと思っうんで、どうして、そのキラキラした話ばかりにいくんかなと思って。

ジョーブログさんって、御幸森出身と聞いたから、私はすごい嬉しくて、彼だったらそういう多文化共生の長年、自分のルーツも含めて、そういうところを語ってもらえるんじゃないかと。今、ヘイトスピーチが荒れていて、クルド人問題とかで大変なことになっていて、危険をはらんでるからなおさら、私は、このジョーさんと組むのはいいと思ったんです。でも、そういう発信力を持つてる人だとすれば、そのヘイトスピーチとか、そういう多文化共生で、インバウンドでバンバンやってる反面、ものすごく、今ヘイトクライムというか、ヘイトスピーチとか排他的なことが、ものすごく命に関わる問題になってるとしたら、私は、生野区の売りは、人権やと思ってます。

多文化共生っていうのは、人権があつての多文化共生やと思って、売ったり、買ったり、食べたりという問題ではないと思うから、人権感覚もすばらしいところなんやっていう上に立って多文化共生、その上に立ってグローバルタウンとか、このおっしゃってるような提案が、私は生きてくるんじゃないかなと。

区長が異和共生って言っていますが、私、金城さんにもお話聞きましたけど、やっぱり関西沖繩文庫、大正で、そこで学ばれたっていう、まさにその基本の肝心要の部分が、ここには何一つ入っていない。長年の在日コリアンの人との共生、なおかつ、たくさんの方がここに学びに来てると。そういう意味で言うと、今、私も少し関わってるんですけども、歴史資料館、大阪コリアタウンには、もう世界中から来はります。今、パチンコっていうドラマが AppleTV で世界配信されていて、実は、その聖地巡礼じゃないけど、世界からコリアタウンに来られる方がいて、まさにそれこそ、インバウンド、狙うべき人たちなんじゃないかと。

もっと言うと、コリアタウンに来る人たちの単価計算ですよ。どれだけのお金が落ちるか。さっき平島さんも言ってたけど、誰が儲かっているのかっていう話。地域のごみの問題、自転車の問題、不法駐輪とか、騒音の問題とか、何ひとつクリアされていない中で、がらがら夜も、今、平島さんが言ってはったけど、そこには、やっぱり住民の感覚ついてこないし、夜市がいつやっているのかもよく分からないっていうようなところも含めて、やっぱり、その基本の多文化共生っていう、地域住民との共生、それから、ここが人権の発信地やというところにもっと力を入れてほしいなど。

長くなりましたけど、私 1 回、去年かな、区役所の区民だよりに文句じゃない

けど、「これ、あかんで」って言ったのは、いくのパークのお店の宣伝みたいなのが載ってたんですよ。皆さん、覚えてないかな。いくのパークには、こんな喫茶店がありますって。いや、これはあかんやろって。なんで、こんなお店の宣伝をここに。例えば、多文化ふらっとで多文化共生教育やってますとか、コリア NGO センターでフィールドワークをやっています、そういう発信やったらいいけど、ここはケーキが売ってますとかなんかっていうのを区民だよりに載せんのかなと言ったんですよ。絶対に、ほかの地域が怒ってきはります。いくのパークに入ったら普通のお店が広報で宣伝してもらえんのかって。それは私、もういっぱい言われてるんですよ。ほかの地域の方から。特別扱いされてるよねって。私が見てもそう思います。さっき言うてはったけど、生野区全体のバランスとっていかなあかんのやったら、夜市をやるのもいいけど、やっぱり、ここがなんで、例えば、区役所がなんで、いくのパークとか御幸森に力を入れる。これは生野区が一番の売りである人権の問題に関わってくんやっていうところを、私はそこも強調して、今後、考えてほしいなと思います。

以上です。

○山納委員

はい、ありがとうございます。では、先に進みます。

こどもの未来部会の報告をお願いいたします。

○今井委員

12月20日に、こどもの未来部会が開催されました。主に、区政案に対する意見とグローバルタウン物語についてでした。グローバルタウン物語のほうが少ないので最初にこちらのほうからお話ししたいと思います。

先ほどもありましたが、未来を考えることは、こどものことを考えることだということで、外国人家庭のところにいろんな問題が起きていることに対して、それを支援していくのはとてもいい取組だと思うということがまずあるんですが、ただ、ほかにもいろんな家庭の方々がいらっしやって、自分たちのほうには少し目が向かないのではないかみたいな思いをされる方もいらっしやるので、広報の仕方を変えて、全ての人に対して力を入れているけれども、外国ルーツのある家庭に対して特に力を入れ、一緒に暮らしていこうという、そういったメッセージのグローバルタウン物語のプロジェクトとしていってはどうかというご意見。

あと、AIの音声ツールを区役所の窓口とかでされるみたいなアイデアが出ていましたが、実はそれは、外国人の多言語翻訳だけでなく、聴覚障がいか、難聴とか、障がいのある方にとっても使えるツールであるということで、外国人の家庭の問題だけではなく、ユニバーサルに社会をデザインしていったらいいんじゃないかという。そういった広報のこととか、プラスアルファの情報みたいなことも、ぜひ踏み込んでもらいたいというご意見がありました。

あともう一つ、上のほうに自転車のマナーに関して、日本に住んでいる人でも、どんどん変わる法律とか、そういったものに追いつけていないので、日本語話者じゃない人にも、そういったことをしっかり学べる機会をつくってほしい。そういったご意見がありました。

こどもの未来部会のほうは、次のページに行きまして、主に生野区の来年度の新しい区政の取組（案）についてのご意見が大半でした。

1つは、これまでもご意見が出されています学校再編に関わる通学路の安全について、ご意見・情報をいただきました。

あとはもう1つ、小学校の運動スペースが狭くなっているというご意見もいただきました。また、例えば、勝山と東桃谷小学校の学校再編に向けて、通学路の安全についての予算がどのように使われているのかという具体的な質問ですとか、生野未来学園では、学級編制の人数が40人から35人に基準が変わったことで、将来的に教室が不足するというので、急遽校舎を建てる工事になったりですとか、工事に伴って運動場のスペースが狭くなっているといったことについて情報をいただきました。区役所のほうからは、運動場の面積とか教室確保、また安全配慮といったものも工事業者と教育委員会と連携して対応していきますといった回答をいただきました。

もう1つは、元生野中のところに教育支援センター桃谷というのがあるんですが、生野区の不登校のご家庭さんにこういった情報が十分に届いてないんじゃないかと。近くにあるのに、必要な人に届いてないものをどうやって丁寧に情報を提供していくか。そういったこともしっかり支援体制をつくってほしいというご依頼もありました。

最後なんですけど、この部会で約1年くらいですか、妊産婦さんの支援について、かなりいろんなご意見をたくさんいただきました。妊娠してから出産するまでに必要な情報が届かず、孤立して1人で子育てをしてしまう。そういった妊産婦さんに対して助産師さんや保健師さんを増やせないかと。そういった子育てをしっかり応援できるような体制をつくってほしいという、そういったご意見が、この1年くらい、たくさん委員の方から出てました。なんと、新規事業としてそれが盛り込まれたんです。ただ、詳しく書かれてなかったんで、それについてたくさんご意見が出ました。回答のほうにも書かれてあるんですが、結果としては、まだ助産師会と協議がしっかりできていないので、具体的な数字とか、いつから始めるかとか、そういったことが書けなかったと書かれてあったんですが、こどもの未来部会の中でもしっかりと、これまで妊婦教室が年に4回だったのを毎月、助産師さんに来てもらうとか、毎回の妊婦教室にご案内の電話をするとか、そういった形で妊婦さんが集まる場に助産師さんが来て、会えるような、そういった場を必ずつくっていきたいとおっしゃっていただきました。

こういった形で迅速に対応していただいたことが、本当に素晴らしいなということを確認して、これが今後どうなるのかということを見守っていきましようといった形で終わりました。

私からは、以上です。

○山納委員

ありがとうございます。それでは、ただいまのこどもの未来部会の報告についてご質問、追加でご意見などありましたら挙手にてお願いいたします。

○永裕委員

私はこどもの未来部会なんですけれども、部会の際に言えなかったことを補足としてお話をさせていただければと思います。

これすごくいいなと思った区の出組なんですけれども。生まれたこどもに障がいがあったと分かったとき、保護者というのは、どうしていいか分からなくて、かなりつらい経験をするんですけれども、生野区役所の保健師さんたちが、ダウン症のお子さんを持つお母さんたちから保護者同士のつながりが欲しいという声が上がったときに、保健師さん主導で顔合わせの会をつくってくださったんです。そのときに、ダウン症の子を育てている経験者の先輩である保護者もその場に呼んでくださって、つなぐということをしてくださったことがあって。今までだったら、なかなかこういうことは、区の主導ではなかったことなんです。それを、現場のお母さんたちの声を聞いて、また地域にある資源を使って上手に組み合わせるといふのを、区が動かしてくれたということは、とても素晴らしいことだなと思って。今まで生野区役所の方といろいろお付き合いしてきた中で、最近、特に保健師さんたちもそうですし、ほかのところでも、現場の方がすごく柔軟に地域の方の声を聞いて動いてくれる機会が、防災のことでもそうですし、すごく増えているなと思っているんです。なので、やっている中で、どうしても批判というのはたくさん出てしまうとは思いますが、それはそれで受け止めつつも、それから臆せず、こういう新しいチャレンジをぜひしていただきたいなというのを、後押しとして、すごいよかったですというお話をしたかったです。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

○西村委員

こどもの未来部会の西村と申します。

ご報告みたいなことになるんですけど、以前、挙げさせていただきました通学路の問題で、生野未来学園になったことによって生野消防署前を渡るこどもたちが出てきているというふうなところで、我々の舍利寺連合と生野警察とか、生野消防署、生野区役所の皆さんにも来ていただいて、何回かお話をさせていただきました。

いたり、今日お見えの市議員の皆さんにも来ていただいているいろいろお話をさせていただいて、これが一番いい方法かどうかは分からないんですが、消防署前の緊急車両が出るところ、緊急車両が出るために中央分離帯を外してあるんですけども、そこを、消防署のほうから出た意見があるらしいんですけども、閉じてしまう。閉じてしまって、それによって今まで渡っていた車や大人たちは不便になるかもしれませんけども、少なくとも小さな子どもたちが渡らないようにするというのを来年度には実行していただけるということをお伺いしておりますので、これも、皆さんのおかげかなと思ひましてご報告させていただきます。ありがとうございます。

○山納委員

ありがとうございます。あと1人くらいなんですが、いかがでしょうか。

○福田委員

学校跡地についてちょっとお聞きしたいんですけども。

今、大阪市内の学校跡地は基本売却ですが、生野区内は例外としてインターナショナルスクール、いくのパーク、第2グラウンドなどに活用されていると思うんですが、理由は、災害時の避難場所や地域のコミュニティの場として学校を残すことにしていると思います。また、学校跡地を利用しないままにしているだけで、年間の高額の維持費が区として負担になるため、閉校後、速やかに跡地活用していることは理解していますが、閉校された生野区内の学校を売却せず、全て残す一律の考えはどうかと私は思っています。

その理由として、卒業生、保護者など、閉校した学校への思いや気持ちは理解できますが、生野区が抱える子育て世帯の減少、少子高齢化、住人の減少、空き家問題、10年、20年後もっと、この先を考えると、学校跡地を全て残すことが最善かどうかというのがちょっと不安に思っているんです。学校の敷地は広いです。スーパーや病院ができれば、近隣住民の日々の生活がしやすくなるし、近隣にもまた、その施設ができることによって店も増えてきます。マンションや戸建ての住宅を建てれば、子育ての世帯や生野区の住民が増える要因にもなります。会社・工場ができれば、通勤でバス、また電車などを利用されます。職場の近く、生野区内に住もうと考える方も増えると思います。既にバス・地下鉄は民営化されています。利用者が減り、採算の取れない路線は、減便や路線の廃止につながりかねないです。そうなってしまうと、余計、生野区が過疎化になって、止まらなくなると思うんですね。

学校跡地を残すことだけが、災害避難場所の確保や地域コミュニティの場の確保ではないと思っています。学校売却時に、生野区として新しい施設を建設される売却先に、地域住民の避難所としての活動や災害時用物資の保管場所、地域コミュニティの場を考慮いただくなど、区役所が先頭に立って交渉いただくこ

とも可能だと思います。新しい施設、新しいまちづくりが、どんどんその場所に輪になって広がっていき、生野区の活性化につながるように行政として考えていただきたいと思っています。

○山納委員

ありがとうございます。このお答えというのは、今すぐではなくて、最後でしようか。

○森区政推進担当課長

最後にまとめて。

○山納委員

最後にまとめてということにさせていただきます。ありがとうございました。最後に、くらしの安全・安心部会からの報告をお願いします。

○川中委員

それでは、参考資料4に従いまして、くらしの安全・安心部会の報告をさせていただきます。こちらの部会は、12月23日の月曜日に行われました。

「生野区グローバルタウン物語」プロジェクトについて大小6つほどの意見が出ました。

1つ目ですけれども、定住外国人はいくのパークのあたりだけではなくて区全域に居住しているわけですから、いくのパークだけではなく区全体で様々な推進の拠点が設けられたり、あるいは推進の取組が展開されたりしていく必要があるのではないかという意見が出ました。

2つ目ですけれども、防災・減災に関するものでした。避難誘導や避難所運営において、多言語・多文化の対応を推進していくということが必要ではないかという意見が出ておりました。また、事業所との連携も、この流れの中で進めていくべきであろうという意見も出ました。

3つ目ですけれども、日常での相互理解を深めていくために、具体的な提案として、コミュニティFMの立ち上げが示されました。様々な地域や国の音楽や情報が日常的に流通する環境をつくるのが大事ではないかといった観点です。

4つ目ですけれども、こうした各種取組を進めていくためには、区役所職員の研修というのが大事ではないかという意見が出ました。

5つ目ですけれども、どうしてもこうした取組のメッセージの中では外国にルーツのある子どもたちの支援に関心がいきがちなんです。しかし、その家庭や保護者、周りにいる人々の支援や、定住外国人の活躍推進も考えなければならぬという意見が出ました。

6つ目ですけれども、ほかの部会からも意見が出ておりました通り、観光推進をしていく場合、その前提としてインフラや環境の整備が取り組まなければならないという意見が出ておりました。

以上が、「生野区グローバルタウン物語」プロジェクトに関する意見です。

区政全般に関しましても意見が出ました。

その1つ目は防犯に関するところですが、自転車マナーの啓発については、警察等との連携も深めて、より一層強化していく必要があるという意見が出ています。また、こどもたちの見守り活動を手厚くしていくことの必要性も指摘されました。“ながら見守り”みたいな形で、ウォーキングをしながら、犬の散歩をしながら、掃除をしながら見守るといった取組を推進してはどうかという具体的な意見が出ています。また、防犯カメラのリプレイスやメンテナンスを推進していく必要があるということも意見として出ています。

最後ですけれども、防災訓練について空白地帯があるのではないかと指摘がありました。防災訓練がなされていない地域については、その実施を後押ししていくということが必要ですし、その実施等を通じて備蓄等の現況をきちんと把握・確認していくことを区全体として推進するべきであるといったご意見が出ました。

いろいろなご意見をいただきましたので、全てを紹介しきれているわけではありません。参考資料4をご清覧ください。以上です。

○山納委員

川中委員、ありがとうございました。ただいまのくらしの安全・安心部会の報告に対してご質問や追加でのご意見がありましたら、挙手にてお願いいたします。

○西村委員

今日も夕方、うちの町会で空き家になっているところの2階の窓にひびがたくさん入っていて、それ自体は4、5年前の台風の時からあったんですけど、貼っていたガムテープがとれてしまっていて危ないということで、うちの町会の人区役所の方を呼んで、ちょうどそこに私は帰ってきたんですけども。その後、区役所の方から消防署に言っていただいて、すぐに消防署の方が来て、その2階のいっぱいひびが入っているところにガムテープを貼ったりして応急処置をしてくれました。そんな家は、皆さんご存じのようにたくさんあるんですけども、もっと老朽化しているところを本当に何とかしていかないといけない。

今日、まさしく阪神淡路大震災から30年ですけども、家屋の倒壊等で亡くなった方が多数いらっしゃいました。その状況はこの30年経った今でもあまり変わっていない。トイレのこととか、避難所の問題とかもありますけども、それをやっぱり何とかしないと、これから起こるであろう大地震に、本当にこの30年何をやってきたのかという、本当にこどもたちにも恥ずかしい話だなと思います。それをもっともっと周知して、改修に関して、解体に関して補助金があるというようなところをしていただいていると思うんですけども、もっともっ

とやっぱりしていかないと、残念なことかなと思います。

補助金でも、例えば今里筋の西と東でその額なんかは違ったりしますけども、今里筋なんかは後からできた道なんで、もっと古い町並み、今里筋から東側にもっと古い町並みがたくさんありますので、そういうところも正確なあぶり出ししていただいて、もっと補助金もそちらの地域でもおけるといふようなこともあってもいいのかなとか思ったりしています。そういうことが進んでいかないと、阪神淡路以降の教訓が生かせないのかなと思っております。

以上です。

○山納委員

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

○中村（一）委員

中村です。

やはり生野区は、国籍が80か国とかいうのでたくさんおられて、日本語が話せない子どもたちのご家庭があるということなんですけど、日本語を教えるということが非常に重要なことかなと思うんですけど、それ以上に、ここはかなり多くの国の方が住んでいるので、我々自身がほかの言語も少し覚えていく努力が必要なんじゃないかと思います。実際まちの中を見ても、韓国語なんかはたくさんあふれていますけど、やっぱり世界で一番よく使われている言語で英語の表記とかを見ることは少ないですし、若い世代の方とか、翻訳機が使える人とかは、ちょっとぐらい分からなくても、できるよというのがあるかもしれませんけれども、むしろそういうのを苦手な世代の方とか、取り組めていない企業、商店の方とかに、区としてはサポートをぜひお願いしたいと思いますし、できるだけ英語、その他の言語に触れる機会をつくっていくという意味で、先日のくらしの安全・安心部会で、私は森口委員の意見がすごくよかったと思いました。コミュニティFMのやつで、いろんな国の音楽とかメッセージを流したらどうかというのは、やっぱりそういう言語のこととか触れる機会というのでいうと興味を持ったりとか、一番みんなが仲よくできるような取組じゃないかと思いますので、ぜひそういうのを後押ししていただけたらと思います。

○山納委員

ありがとうございます。あとお1人くらいですが、いかがでしょうか。

○永裕委員

どなたもないようなのでちょっと一言。

私も森口委員のコミュニティFMというのがものすごくいいなと思って。これ、それこそ災害時にも十分機能するものだと思いますし、人間というのは、目で見る情報を取るのが得意な人と、耳からの情報を取るのが得意な人、2つに分かれるそうなんです。どうしても情報発信というのは、視覚的なPRというのが中心

になってしまうんですけど、この音声発信のPRというのは、この生野のグローバルタウン物語の中でも確かにそのアプローチは少ないかなと思うので。特にコミュニティFMって、いろんところがやっては下火になっていたものですけど、生野独特なので。今ポッドキャストとかもありますし、すごくいい企画かなと思うので、ぜひ前向きにやっていただきたいなとも思いました。

○山納委員

ありがとうございました。以上各部会からご報告をさせていただきました。シナリオを読み間違えていて、もう一つ、皆さんにしゃべっていただける時間が今からございます。全体を通じてでも構いませんし、全体会の場で共有したいということがございましたらご発言いただけたらと思います。ボーナスタイムが5分くらいあるんです。せっかくなので、この機会に何かを残して帰っていただける方、募集しております。いかがでしょうか。

○須郷委員

まちの未来部会の須郷です。よろしくお願いたします。

参考資料2でも意見を取り上げてくださっているんですけど、すごく気になっているのが、生野未来学園の教育のあり方なんです。先ほどご報告がありましたように、試験結果が非常に思わしくなくて、大阪市は全国でも下位なんですけど、その中でもさらに低いという結果が出ております。

私は統廃合をするときに、林寺地域代表を務めていたんですけど、そのときに教育委員会とか、区役所とか、今回、市会議員の方もいらっしゃいますが、皆さん方がおっしゃっていたのは、生野区にすばらしい学校をつくるんだと。大阪で初めての9年制の義務教育学校をつくって、いい教育をするんだということをとにかくおっしゃられて、いろいろ意見交換とかをしたんですけど。林寺からも質問書を何回も上げましたが、なかなか期待できる回答がいただけなくて、はぐらかすような回答ばかりでがっかりさせられました。ところが、そういうすばらしい学校をつくるって3月で丸3年を迎えようとしているのに、ほとんど良くなる兆しを感じません。うちの町会にも、生野未来学園に通っているお子さんがいて、林寺の地域にもたくさんのおともたちがいますけど、そのおともたちの意見を聞いても、保護者の意見を聞いても、満足のいくってというか、納得のいく、おっしゃられていたすばらしい学校で良かったって声がほとんど入ってこないんですね。

ですので、ぜひともこの3年間をしっかりと検証していただいて、皆さん方がおっしゃられていたすばらしい学校というのは、こういう学校なんですと具体的に示していただきたい。そのうえで、ちゃんとその学校を実現できるようにしてほしいんですよ。過去には戻れませんが、未来はこれから築いていけると思うんで、しっかりとした教育をして、まちの未来部会、こどもの未来部会、くらし

の安全・安心部会とありますけど、全てつながっていると思うんですね。だから、その未来に向けた、生野区がどうあるべきか、どういう方向に向かっていくのか、何とか良い方向に向かうように努めていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○山納委員

ありがとうございます。それでは、区役所の方にお答えいただこうかと思っておりますが、まだこれは言っておきたいということがある方はおられますか。

○西村委員

この会議自体、例えば男性と女性の割合とか、すごく女性が少ないかなと。今日お見えの方でいうと、26名の方のうち女性って7人かなと思うんですけど、3分の1もいらっしやらないっていうのも、ちょっとこれ、アンバランスかなと思ったり。これだけ外国の方がたくさんいらっしやるっていう。例えばベトナムの方や中国の方って、確か3,000人ずつぐらいいらっしやるかと思うんですけども、そういう方の出席って無理なのかなとか。こどもの未来っていうなら、こどもたちにも意見を聞いたらいいいんちゃうかなと。こんな場に出てこれないかもしれないけども。参加者の見直しっていうか、そういうこともあってもいいのかなとちょっと思っておりましたので、いかがなものでしょうか。

○山納委員

ありがとうございました。それでは、いろいろとご意見出ましたけれども、区役所の方、ご返答のほうをお願いいたします。

○川楠まちづくり推進担当課長

まちづくり推進担当課長の川楠と申します。学校跡地の担当をさせていただきます。

先ほど委員からのご発言がございましたとおり、学校跡地につきましては、大阪市ではそれまで、未利用地等、学校の跡地とか、そういったものは基本的に売却するという方針でございました。その後、生野区の学校再編の取組を進めるにあたりましては、生野区として、また大阪市として、学校跡地は地域のコミュニティに関しても重要である、拠点であると。防災機能として避難地域の避難所としても重要であるという観点から、基本、売却するという方針を、生野区の学校再編に関しましては、売却せずに残すということで方針を立てさせていただきましたので、委員のご指摘のとおり、その跡地を維持していくということも維持費もかかるということで、民間事業者のノウハウを活用して、円滑に活用していただきたいというもろみがあったのは事実でございます。

また、一律売却しないのは反対であるということでございましたけれども、そのご指摘といたしまして、子育て世代がこれだけ減少していくと、その改善ということを図るべきではないかということで、最善とは思わないと。人口が減るの

がご不安であると。学校の跡地にスーパーや病院など、また会社、工場など、そのほか利便性の高まるような施設があれば、人口、会社も増えて、人が集まってくるのではないかというようなご指摘でもございました。跡地を賃貸などで活用するのではなく、売却するにいたしましても、防災上の条件であったり、地域の活性化の条件であったりということを付した上で売却するということが可能ではないかというご指摘でもございました。

私どもといたしましては、またその観点もございしますが、密集住宅市街地ということで、特に生野区の西部地区につきましては、大きな場所もなかなかないということでもございます。また、これまで地域の皆様方の愛着ある施設ということで学校というのは位置づけがあったかと思えます。そういったものを、皆様方のご意見をいただきながら重要と考えまして、地域の中に残しながら、学校跡地を核としたまちづくりということで学校の跡地を拠点といたしまして、地域の皆様方との交流や、事業者も入りまして、そういった活性化を目指していきたいということを考えているわけでございます。

大阪市全体でも、その後、未利用地を一律に売却するのではなく、防災上必要である場合などは、残して活用していくということ、取組が他区のほうにも広がっていると。考え方も広まっております。

また、跡地活用を始めてまだ数年ではございますけれども、我々も事業者を支援ししっかりと取り組んでまいります。地域の皆様方にもご理解を賜るとともに、ご支援ご協力のほどよろしく願いいたします。

○山崎安心まちづくり担当課長

私、安心まちづくり担当課長の山崎と申します。先ほど西村委員からございました、空き家の件についてお話しさせていただきます。

先ほど西村委員からもお話がありましたように、生野区内には、老朽化した空き家がたくさんあるような状況になっております。阪神淡路大震災のことも踏まえましたら、やはりそういう古くなった建物は、きれいにさせていただいて、耐震性あるものにしていかなければというのは、我々としても非常に大事な話だと認識しております。

いろいろ空き家の調査なんかをさせていただく際に、やはり、いろんな要因でなかなか進んでいないというケースもあるんですけれども。例えば、もともとご両親が住んでおられたけれども、お亡くなりになったら、相続という形になるんですけれども、相続人の間で、なかなか皆さんでまとまって、こうしていこうというのが決まらず、争いになって進まないというケースでありましたり、相続人の一部の方が見当たらないというケース。それから、それ以外にも、金銭的な部分でなかなか進まないという部分もあつたりします。また、相続に絡んでなんですけれども、外国籍の方、例えば、韓国籍の方が相続したということになりました

たら、日本の法律に基づいて相続をするのではなくて、韓国の法律に基づいて相続するという形になります。兄弟関係の方が日本国内ではなくて韓国におられて、連絡も取れずどこにいるのかも分からないというような形になった場合に、相続をしようと思ってもなかなかそれが進まないというような問題も発生していると聞いています。

いろんな課題がありますので、それらの課題を、我々のほうも研究しまして、解決をしていくということも当然していかなければならない。そうすることによって、やっと新しく所有された方も、次の活用というふうに考えていけると思っております。

また、この間、空き家の利活用ということで、こういう利活用ができますよという話を、いろいろ業者さんとマッチングするというような取組なんかも行っているところですが、なかなか現状としては進んでいないようなところがあります。この辺が、我々がいろいろ、こういうメリットがありますよ、このまま置いていたら、逆にデメリットとして、こんなのがありますよという話を、もっともっとお伝えしていかなければならないというのが課題なのかなと思っております。この間、区の広報紙でも、例えば直近で言いますと、今年の8月の広報紙にもその辺のことを掲載させていただいたんですけども、なかなか行政的に書いてご理解いただけてないのかなとかというのも課題として思っております。やはりそのあたりに関しましてはいろいろ勉強して、空き家の活用という形で進んでいけるように取り組んでいきたいと思っております。

また、皆様方からも、そんなんでは駄目だよという、駄目出して結構です、いろいろとご指摘いただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○中條地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長の中條と申します。

生野未来学園につきまして、部会のほうでもご意見いただきまして、先ほどのご意見でも、改めて、開校してから3年間、果たして素晴らしい学校になっているのかというご指摘だと思います。いろいろご不安な思いをおかけしているところは申し訳なく思っております。

義務教育学校生野未来学園につきましては、9年制の学校として、9年間を通してのキャリア教育というところに力を入れておりまして、また、実際の取組としては、習熟度別学習の取組であるとか、後期課程の先生方による前期課程の高学年への教科担任制の導入でありますとか、いわゆる中学部の先生方が小学部の先生とも連携して教える等しながら、こどもたちが将来の夢を持つこと、また、こどもたちの生き抜く力をどう養っていくか、まさに今の時代に非常に重要な

ところだと思っておりますが、そういうところに注力して、この間取組を進めてきているところでございます。

先ほど、学力の、全国のテストの結果というところで、非常に悪かったというようなお話があったかと思うんですけれども、学校のほうでは、また教育委員会、区役所のほうも支援しておりますけれども、もちろん、こどもの成績、学力というところは、一人一人、個々人によって差があるところもあるんですけれども、こどもたちの学習状況、学力の定着状況というのを踏まえながら、それを向上させていくということで、いろんな方法でやってきているところでございます。3年間取組をやってきている中で、それぞれのこどもたちに着目した場合には、もちろん向上してきている部分もあるんですけれども、全国に比べて、また大阪市の中で、果たしてどれだけ学力が素晴らしいものになっているのかというようなご意見ですと、これまでの学校の取組、教育委員会や区役所の支援の状況について、その辺りもしっかり踏まえて、改めて、これから足りない部分なり、できる支援なり、取組というのをまた考えて取り組んでいく必要があるかなと考えております。

十分なお説明になっているかはわかりませんが、こちらからのご説明は以上となります。

○筋原区長

「グローバルタウン物語」プロジェクトにつきましてのご意見、ありがとうございます。安委員、足立委員、長年、人権をはじめとする難しい課題に向き合っていて、戦ってこられた。そういう中での非常に重い、大切なご意見と思っております。

おっしゃいますように、この「グローバルタウン物語」プロジェクトの、まず土台になるのは、もちろん人権と考えております。その上での、我々のそれぞれの施策というふうに考えておまして。また、もちろん、生野区の長い歴史を、在日コリアンの方々との長い共生の歴史、そして、コリアタウンも多くの方が学びに来られるという、それも強みということで、もちろん考えております。ですので、私は、異和共生を生野区の全ての基本理念としておりますので、その部分は、このプロジェクトの前提として当然あるわけですけれども、活性化が過剰にイメージとして前に出過ぎないように、そういう人権、多文化共生、その歴史も踏まえたところにあるというところの言いぶり、書き方、それは工夫したいと思っております。

また平島委員も、本当に地域で、コリアタウンの課題に取り組んでいただきましてありがとうございます。もちろん、たくさんの方が集まってきましたら、ごみの問題、駐輪の問題をはじめ、いろいろな課題が実際に起こっております、これについては、コリアタウンとも今も協議をして、警察や関係機関とももちろん

ん協議もしながら取り組んでいるところがございます。そこにインバウンドと言いましたけれども、もちろん、コリアタウンの地域というのは、常設でそういう夜市ができるというのは無理だと思っておりますので、定期的に、月1回ぐらいで限度やと思っております。

またインバウンドも、100%インバウンドに振ると、これまた大混乱にもなりますし、地域の魅力というの、インバウンド100%に振ると失われてしまうと思いますので、今の200万人のにぎわいをこれからも維持していくための、その落ち込み、今の、それを回復させるところを目的としたインバウンドの呼び込みというふうに思っております。比率で言うと、インバウンド2割、地域のお店8割ぐらいの感じかなというふうに思っておりますので、こういう形でインバウンドによる収益強化、プラス地域のお店の魅力も生かした形で進めていきたいと思っております。

それから、あとコミュニティFMについては、私も非常にいい考えだと思っております。これもいろいろなやり方が考えられると思いますので、アイデアもいただきながら、ぜひ、いろいろな形で取り組んでいければなと思っております。

それから、西村委員がおっしゃっていた、この区政会議自体の女性の割合については、確かに少ないんですけども、各地域の、各まちづくり協議会、地域振興会、各団体からご推薦いただいて委員が決まっていくわけでございますけど、そこでもご理解をいただいて、また次の改正の時に各地域、各団体から、ぜひ女性の委員を多くご推薦いただきたいなと思っております。また、外国籍の委員についても、これは公募委員の募集のときも、何人か外国籍の方もおられて、面接もさせていただいたんですけども、日本語が難しかったりというようなことで、ちょっと実現しなかったところもあるんですけども、外国ルーツの高校生の皆さんと意見交換をさせていただきましたので、それも後ほどご報告させていただきます。そういったようにいろいろな形ででも、若い方、外国ルーツの方のご意見もいただきながら進めていければと思っております。

以上でございます。

○山納委員

はい、ありがとうございます。委員の皆様、活発なご議論、ありがとうございます。そして、区役所の皆さんの真摯なご回答、ありがとうございます。これにて、部会報告のコーナーを終わらせていただこうと思います。マイクを北口議長のほうに返させていただきます。

○北口（充）議長

山納委員、ありがとうございます。

それでは、続きまして議事2、高校生との区政に関する意見交換会についての報告ということで、事務局から報告をお願いします。

○小笠原企画総務課担当係長

企画総務課の小笠原と申します。

私より高校生との区政に関する意見交換会について、ご報告させていただきます。着座にて説明をさせていただきます。資料につきましては、参考資料5という資料になります。記載された資料をご覧ください。

これまでの区政会議でも、もっと若い世代の意見を聞いたらよいのではないかと、若者の参画機会の創出や、出前型区政会議の実施について検討してほしいというご意見を頂戴しておりました。これを受けまして、生野区役所としても、これからの未来を担う若い方々のご意見を聴取し、行政として理解を深め、施策・事業を展開していくことは重要であると考えまして、令和6年度から高校生を対象に意見交換を実施させていただいたものでございます。今年度につきましては、大阪府立大阪わかば高等学校に依頼させていただき、生徒の皆さんと意見交換をさせていただきました。その理由につきましては、資料の1ページ目の下、開催趣旨の下段のほうに記載させていただいております。

生野区では外国人住民が急速に増加しておりまして、多文化共生のまちづくりを進める上で様々なルーツを持つ方々のニーズ調査が急務となっていることから、意見交換会の対象高校生につきましては、今年度、外国籍の生徒が多数在籍しておられる大阪府立大阪わかば高等学校の生徒とさせていただいたところでございます。

資料2ページ目になりますが、その意見交換会の内容について説明させていただきます。

意見交換の前に、まずは生野区について少し知っていただくということで、意見交換会の開催1週間前である令和6年11月18日に大阪府立大阪わかば高等学校のほうに区役所がお伺いさせていただき、授業の時間をちょっと頂戴いたしまして事前の説明をさせていただきました。生野区とはどういうまちなのか、どのような特色があって、どういう取組を行っているのかについて少しお話をさせていただいたところでございます。

外国ルーツを持つ生徒さんに対してのご説明でしたので、できるだけ私もやさしい日本語での言い換えなどを意識して、駆使してお話をさせていただいたんですけども、実際に経験してみて、とても難しいと実感いたしました。とてもいい経験になったと思っております。このときには、まず生野区はどんな感じか、さわり部分だけでも分かっていたらいいかなということで、導入という形でご説明をさせていただいたところになります。

そして下の段ですけれども、令和6年11月25日に生野区役所のこの場、大会議室で意見交換会を実施させていただきました。意見交換会当日は、外国ルーツを持つ9名の生徒の方にご参加いただき、区役所からは区長と副区長、そして

ファシリテーターとして学識委員の川中委員にも参加していただきまして、意見交換会というよりは、さくばらんな交流会みたいな形で和やかに開催をさせていただきます。

続きまして次のページでは、生徒から当日寄せられた声を記載させていただきます。

ピックアップして紹介させていただきますと、「日本での暮らしについて、どうですか」ということを聞いてみたんですけども、日本はごみが少なく、お店もたくさんあって便利というような嬉しい言葉もいただいております。

すごく印象的だったのが上から4つ目、やっぱり言語で困るっていうのはすごく知っておったんですけども、特に日本人と電話で話すときに困るという声でした。書いているものであれば翻訳機とかを使って翻訳してとか、誰かに教えてもらって理解できるんですけども、電話となると、言葉がやっぱりすぐ分からなくてすごく困るというようなご意見を頂戴しました。

さらには下から2番目ですけれども、生徒の方は日本語を学んで日本語ができるようになったとしても、親であるとか家族が分からないので、自分が親と一緒に区役所や病院に行って、付き添って仲介といいますか、翻訳をして、緊急連絡先も自分の電話番号を教えて、全て自分が対応しているんだっていうような学生さんもいらっしゃいました。

最後のところですが、やっぱり困ったときに地域の方に助けていただいたと。やさしい日本語で説明もしてくれて、そういったことが嬉しかったという声もいただいております。

続きまして、今後の進路とかどういう形で考えているんですかというようなこともちょっとお聞きしたんですけども、大体、進学とかを考えているということが多かったと思います。

続きまして、外国ルーツの方が情報をどのように入手しているかというようなお話の流れとしてなったんですけども、YouTubeとかTikTokとかSNSなどで動画を見るんですけども、残念ながら区役所に関する情報は、なかなか見ないと。ホームページも見ることはないという意見をいただきました。結構、生野区役所でも動画でお伝えしようということで、YouTubeで掲載させていただいているんですけど、なかなかそこを選んでいただくのが難しいのかなということは実感しました。広報の仕方を考える一つの意見ということでいただきました。

あと、区役所とかにモニターとかがあって、お知らせを動画とかにせずと流してたらいいんじゃないかという意見もありました。地域の掲示板とかもモニターだったら、紙に書いてると読むのは難しいんですけども、動画だったら流れが理解できたりするということで、若い方の発想だなということで、そういったご意見もございました。

あとはやっぱりマナーの問題、自転車マナーや、ごみ出しマナーなどが問題になりますけども、それを説明する動画であったり、ごみの仕分けのルールなどの多言語版をQRコードだけでも貼っておいてもらえると、そこを見るといったご意見もありました。

意見交換会の最後には記念撮影をして、和やかに終了いたしました。

簡単ではございますけども、意見交換会の説明については以上となります。

ここで、当日参加していただきました川中委員から、一言ご感想いただきたいと思えます。

○川中委員

長時間に及んでおりますので手短に進めたいと思えます。この日、進行させていただきました川中でございます。

この会議の中でこどもや若者の参画の場を設けたらどうかという提案をしておりまして、こうして形となったこと、ありがとうございます。今回は大阪わかば高校の生徒さんという形で、外国にルーツを持つ若者との意見交換でした。日本社会の一員として受け入れられていることを実感する機会にもなったでしょうし、地域社会の一員としての責任感を育む機会にもなったのではないかと思っております。今後、ほかの中学や高校にも広げていっていただけたらなと思っております。

やりとりの中で気になりましたのは、今話の中でも説明があったのですけれども、学校が非常に重要な機能を果たしていることを改めて確認する時間でした。先ほど自転車ルールのごとくがやりとりされておりましたけれども、今般の道路交通法の改正なども学校の中で教わったという話があったり、ちょっとした困りごとなどは先生方が対応されたりしていることも改めて分かりました。そうなりますと、学校を卒業した後、卒後の支援をどうしていくのかなどは、今後の課題だと感じさせられたところです。

また言語の壁につきましては、これも先ほどの報告の中でもあった通り、こどもはある程度時間が経てば習熟していっています。けれども、親御さんの習熟が難しい場合は、こどもが親になり代わって様々な手続きやサポートをしていることがよく分かりました。ヤングケアラー状態であるとも言えます。今は時間がありますのでこどもがサポートできるのですけれども、彼ら／彼女らが社会人となって忙しくなっていくと、そうした親は取り残されかねない課題もあります。なかなか日本語習熟がうまくいかない親世代のサポートの必要性もこどもとのやり取りを通じて見えてきたところです。

全体的に非常に明るく、前向きな感じの意見交換でして、彼ら／彼女らがパートナーとなっていくのではないかなという期待も感じられるところでした。防災ではジュニアリーダーがありますけれども、こうした場で高校生がやる気に

なったら、防災以外の分野でもパートナーとして結びついていく展開もできるのではないかなど、そのような期待が持てた時間でした。

○北口（充）議長

ありがとうございました。

ここで本日関係者としてご出席いただいております歴代の議長等を務められました皆様から、特にご意見などのある方はいらっしゃいますでしょうか。ご発言をいただく際には挙手の上、お名前を述べていただきますようご協力をお願いいたします。

○田中様

失礼いたします。田中でございます。

先ほどの、まちの未来部会の中の話なんです、コリアタウンのほうだけがにぎやかで、ほかの商店街があまりにぎやかにならないなというお話がございました。

実は35年ぐらい前に生野区未来わがまち会議というのがございました。その時には10年間かけて未来を語ってもらえませんかという大阪市からのお話でございましたので、我々は10年間そのことについて4つの部会に分けてやりました。当時の部会は、いきいき活気のあるまちづくりが1つ。そして外国人部会、高齢者部会、そして安心・安全部会という4つの部会に分かれて10年間やってきました。これは何も実現に向けてやるというわけではなく、夢を語って下さいという会議でございました。

そして10年間やったときに、やっと終わりましたねということで、これで解散かなと思っていたところ、次の課長が来られたときに、せっかく10年間かけてやったものだから、皆さん実現に向けてやりましょうよという話がございました。そのときに各商店街、鶴橋、桃谷本通商店街、そしてコリアタウン、生野本通商店街、今里商店街と5つの会長さん皆さんに声かけました。1つの商店街で、大体平均2.5人ぐらいの会長さんがおられますね。鶴橋本通では3人の会長さん、コリアタウンも3つに分かれておりました。それも3人来られました。ということで14、5人のメンバーで、一応こういう会議で我々は活気のあるまちづくりをするために皆さん何かまとめてやりませんかという提案をさせていただきまして、「よし、やろうや」と声をかけてくれたのが、コリアタウンの青年部会の方たちでした。その時に、もうちょっと上の会長さんは、「ほんまにできるんか」というお話もございました。そこでコリアタウンのメンバーさん中心に、そうしたトライアングルタウン構想でやりたい。桃谷本通商店街、コリアタウン、鶴橋とこの三角形に見立てて、トライアングルタウン構想でやりました。

はじめは、生野本通商店街の皆さんもご参加いただくということでやってたんですが、我々は離れてるからできへんという商店街の、その当時の会長さんの

お話でございました。そこで、あとの3つは近いから、これでやりますよというご了解を求めてやりかけてうまくいったときに生野本通商店街のほうから、我々をほっとくのか、と言われたことがございました。しかし、はじめに声をかけさせていただいて、途中でうちは違うでと言われたので、このような状態になったときに、そしてトライアングルタウンという構想に大阪市から1,000万円という補助金が出るというお話を聞きました。これは全部コンサルタント料として出てきたんですが、それをもとに我々は、そのお金をもとに勉強もさせていただきました。商店街にはこういうものがあるで。いろいろもっともっとも考えたらいけるだろうということで、今やっと日の光が当たったのが、25年、30年経ってからで今のこの状態になってます。そのほかにもいろいろやらせていただいたんですけども、こういう時間がかかるような問題ばかりですので、一朝一夕にできる問題ではないのかなというふうに今感じているところでございます。また何かあったら教えていただいたら、また提案させていただきたいと思えますので、皆さんよろしくお願ひいたします。

○北口（充）議長

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは続きまして、議事3、その他ということで事務局から事務連絡をお願いいたします。

○森区政推進担当課長

それでは、私のほうから事務連絡2点をお願いいたします。

まず1点目ですが、令和7年度のこの取組につきまして、令和7年度運営方針（案）として最終整理をいたしまして、次年度の予算案とともに2月から開催予定でございます市議会に諮られます。そこで可決をされますと、正式に4月から取組がスタートということになってまいります。

また、次回の区政会議につきましては、令和7年度に入りまして5月、6月ぐらの開催を今考えております。部会・全体会の開催を予定しております。よろしくお願ひいたします。

加えまして、皆様の任期が令和7年9月30日までとなっておりますので、委員の改選も予定をしております。よろしくお願ひいたします。

2点目。冒頭でも申し上げましたとおり、本日アンケートをお配りしておりますので、ご協力のほう、よろしくお願ひします。後ほど出口のところで回収させていただきます。

私のほうからは以上でございます。

○北口（充）議長

ありがとうございます。それでは、本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願ひします。

○筋原区長

皆様、長時間、非常に熱心なご議論、貴重なご意見本当にありがとうございます。

今、田中照章元議長からトライアングルタウンのお話をしていただきまして、私もこのトライアングルタウンのお話は、区長になる時からお聞きをしております、ずっと10年もの間、生野区の未来のことをご議論いただいて、このトライアングルタウンという構想ができて、それが何とか形にならないものかと思っていたところでございます。このたび、この「生野グローバルタウン物語」プロジェクトで、もし鶴橋駅の東口に実際に常設の場所ができまして、そして桃谷商店街については、おととしからのEXPOいくのヒートアッププロジェクトの中で桃谷商店街の万博にちなんだ食のメニューを考えるというような桃谷博覧会（桃博）という取組を今進めていただいております。こういうような形で、そしてコリアタウンのにぎわいもこれから継続すれば、このトライアングルタウンがまた実現に向かって動き出すのではないかと考えております。

また、毎月19日の「いくのの日」もこの時にできたコンセプト、取組とお聞きしております。去年EXPOいくのヒートアッププロジェクトの中で100のプロジェクトをするということで、今、生野区を面白くしたいという方が集まって、実際に100以上のプロジェクト・イベントを実現できたわけですけど、この動きを、ぜひともこの「いくのの日」の動きに今後つなげていって、この以前の10年議論をいただきまして、このトライアングルタウンや「いくのの日」に結実していただいた形を今後とも新しく展開していけたらなと思っております。

繰り返しますが、基本理念は異和共生と考えておりまして、もちろん要望、ご批判いただくのは大歓迎というか、いただきたいと思うんですけども、やはり我々行政、皆さん、立場は違えども共通の、まちをよくしたいという目標に向かってお互い一歩ずつ踏み出して前に進もうというのが異和共生の感覚でございますので、私どもも要望、ご批判をいただいて、それに対してできる、できないとか言い訳とか、そういうのをお返しするだけでなく、お互いに一歩出て、よりよい方向に進める、そういう形の区政会議を進めていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、1月1日に生野区役所のほうで人事異動がございまして、年末まで副区長でありました小原が退職をいたしまして、後任で大川が副区長となりなっております。それに伴いまして人事異動がございましたので、ちょっとご報告とご挨拶をさせていただきます。

○大川副区長

失礼いたします。今ご紹介いただきました1月1日付で副区長になりました

大川と申します。どうぞ皆さんよろしくお願ひいたします。

○宮城企画総務課長

皆さん、こんばんは。今、紹介がありました大川副区長の後任で企画総務課長になりました宮城と申します。従前は1階の窓口サービス課のほうで勤務をしておりました。引き続きよろしくお願ひいたします。

○武田窓口サービス課長

こんばんは。1月1日付で窓口サービス課長に着任しました武田と申します。これまで区政会議は、部会のほうも担当させていただいてたんですけど、ちょっとそちらは外れますが、全体会は引き続き参加させていただきますので、どうぞよろしくお願ひします。

○筋原区長

以上でございます。本日どうもありがとうございました。

○北口（充）議長

ありがとうございました。

本日生野区取組についての意見の共有がなされましたので、委員の方々につきましては、地域の皆さんの本日の会議の様子をお伝えしていただければと思います。

それでは、これにて令和6年度第2回生野区区政会議全体会を終了いたします。委員の皆様、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。